

## 自然か人為か——エボラ発生の疑惑

平和統一 NEWS No.74 (2014/11 月号)

渡辺 久義

我々の大多数は、自分が本質的にどういう世界に生きているのかを、知らないで生きている。それを理解するためにも、今ニュースの中心になっているエボラ出血熱を追及してみる価値がある。何度も言うように、今我々は、よい麦と毒麦がよいよ明瞭に分別され、悪が悪として正体をあらわす歴史的時点に立っている。“究極の悪”というものがあり、今、世界の各地で発現している諸々の悪が、一つの根源をもち、これがサイコパス（またはソシオパス）と呼ばれる、良心をもたない少数の権力者たちの、地球私物化計画であることが分かってきた。エボラもそのようなものとして見なければならぬ。

ここで特に注目するのは「エボラ熱は国連のワクチン運動と時期が一致する」という Yoichi Shimatsu 氏による鋭い論文だが、このような見方を傍証する論文やニュース記事はネット上にはいくらでもある。創造デザイン学会サイトに、これを含めそのいくつかを翻訳紹介しているので、ご覧いただきたい。例：「西アフリカでエボラを発生させたのはアメリカ——リベリアの科学者」「エボラ出血熱の世界的蔓延：大量破壊兵器？」「エボラに真剣に対応しなかったことを認め、“無能なスタッフ”を責める WHO」等。

このシマツ論文は冒頭でこう言っている——

「エボラ流行熱は、国連の諸機関が元フランス領ギニアの村落地帯で、3つの他の病気のための全国的なワクチン運動を進めていた 2 月下旬に始まった。この紐状ウィルスが、いくつかの大きく離れた地域で同時に発生したことは、この致命的なザイール・エボラ種 (ZEBOV) が意図的に導入されて、解毒剤をひそかに試すために、それとは全く知らない人々に用いられたことを示唆する。」

これに関するニュース報道からだけでも、いくつか疑惑が生ずるが、この論文は、同時に行われていたワクチン運動の詳細や、医薬業界などを含む、巨大な黒い組織的背景を調査分析した上で、これしかないという結論を導き出す。大多数の人々にとって、おそらく国連とか WHO（世界保健機構）のようなものを疑うなど思いもよらぬことで、信じられないという人も多だろう。しかし、この世界のカラクリに少しでも興味をもつ人々にとっては、さして驚くことではない。以下のいくつかの引用から、およその内容を把握していただきたい。

「今年初め、田舎地方の人々は外国基金の医療計画によるワクチンを受け入れようと、熱心に列を作っていた。しかし最初の病気発生の隠ぺいが、西アフリカの人々をパニックに陥れて以来、田舎の人々は、噂される民族抹殺計画を怖れて、国際的な援助計画によるどんな治療も忌避している。…この論文は、ギニアにおける最初のエボラ発生と、WHO や国連の子供機関ユニセフによる 3 種のワクチンのキャンペーンが、不思議にも同時に起こったことに注目する。」

「個人のウィルス持ち込みよりもワクチン運動を疑う理由は、このエボラ伝染が単独の地理的中心から始まって、そこから広がったのでないことである。そうでなく、多数の症例がギニアの田舎の互いに遠く離れた場所で同時に発生しており、これは、異なった場所の住人に感染させる高度に組織的な試みが、同じ時間帯になされたことを示している。」

「…〈国境なき医師団〉が黒い疑いの雲の中に入ってくるのは、それが 2 段階の抗コレラ・ワクチンを配布しているという事実による。薬の投与は 2 週間の間隔を置くことになっていて、この繰り返しの手順は、エボラを試すチームがエボラ・ウィルスを犠牲者の体内に入れ、後に戻ってきて、モノクローナル抗体 (Mab) の解毒剤を与えるための、口実として利用された可能性がある。」

オバマ大統領は先日、西アフリカの感染地へ軍隊を送った。これが医療関係者団でなかったのはなぜか？ その答えは次の結論部分に明らかかなように思える——

「西アフリカの田舎地方の人々が、ワクチン接種運動とエボラの発生が同時であったことを理解した後では、外国基金による医療従事者たちは、怒った暴徒たちに襲撃され、シエラ・レオネのエボラ医療センターは放火されて焼け落ちた。薬品が問題なのであって解決ではないことが暴露された上は、軍隊が出動し、大衆暴動を鎮圧しなければならない。この地域のあらゆる国の国境は、現在、軍隊によって遮断されているが、この伝染病の背後にある真実も、おそらく犠牲者たちとともに埋葬されるだろう。」

この「怒った暴徒たち」が、イギリスから到着した医療班を襲って撲殺したというニュースがあった。事情を知らない視聴者は、「なんという恩知らずで無知な黒人どもよ」と考えるであろう。もし、そう思わせる狙いがあったのだとすれば、これははりっぱなメディアの犯罪である。こうした「暴徒たち」が、ファーガソンの暴徒たちのように、丁重に「鎮圧」されるとは思えない。ここぞとばかりに“抹殺”されるであろう。「軍隊による遮断」は情報遮断のためであろう。彼らを動かしているのは、もともとアフリカ人を人間とは思っていない者たちである。——そして我々は、そのような犯罪者ネットワークの中に、それと知らずに生きている！